

動態解析アルゴリズムの検討

【背景/目的】近年冠動脈 CT (C-CTA) においてモーションアーチファクトを低減させる冠動脈動態解析アルゴリズム (SSF) が臨床応用されており, モーションアーチファクトの低減に関する文献を散見する. 今回 SSF の使用によりモーションアーチファクトの低減以外に画質に影響を及ぼすか比較検討を行った. 【症例】2014 年 1 月～10 月までに C-CTA を行った 30 症例 (プラーク, 石灰化, ステント及び従来法 (Half 再構成) においてモーションアーチファクトが改善されなかった症例は除く) 【方法】拡張期, 収縮期の双方を用いて, 従来法を使用した群と SSF を使用した群に分けて, AHA 分類 #1, #2, #3, #5, #6, #11 をそれぞれ作成し, cross-section 像にて血管径の計測を行った. 次に両群の Axial 画像にて CT 値と SD 値の比較検討を行った. 【結果】拡張期, 収縮期の双方において従来法及び SSF の両群を比較したところ血管径に差はなく, CT 値及び SD 値ともに優位差はなく同等であった. 【結語】SSF の使用によりモーションアーチファクトの低減以外に血管径及び CT 値に対する画質の影響はなかったと考える.